



Title	留学生見学旅行レポート
Author(s)	百武, 慶文; 坂東, 隆男; 松河, 秀哉 他
Citation	大阪大学大学教育実践センター紀要. 2009, 5, p. 49-57
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/5208
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

留学生見学旅行レポート

百武 慶文・坂東 隆男・松河 秀哉・千鳥 哲哉
松本 隆宏・富山 大・安國久美子

Reports on Investigative Tours for Students from Abroad

Yoshifumi HYAKUTAKE, Takao BANDO, Hideya MATSUKAWA, Tetsuya CHIDORI,
Takahiro MATSUMOTO, Dai TOMIYAMA and Kumiko YASUKUNI

Investigative tours for students from abroad in Osaka University were held on August 7, 8 and November 29 in 2008. For the first one, there were 25 participants including 5 tutors, 2 staff members and 2 faculty members, and they visited Tokushima Prefecture to enjoy the eddying current of Naruto, Awa Odori and so on. For the second tour, 43 participants including 5 tutors, 4 staff members and 2 faculty members enjoyed a day trip around Koka Ninja Village and Shigaraki Ceramic Village in Shiga Prefecture. The purpose of these tours was to offer students from abroad in Osaka University several opportunities to enjoy Japanese culture and landscape. In this article, we report details of two investigative tours which were completed with great success.

1. はじめに

平成20年度に大阪大学大学教育実践センターの主催による留学生のための見学旅行を8月と11月に実施した。このような旅行形態のイベントは今年度が初の試みであり、異なる文化的背景を持つ学生と教職員が日本文化の見学旅行を通してお互いに理解を深める、という点がこのイベントを開催する大きな動機である。ここでは教員の視点による旅行の詳細と留学生の感想を柱として、見学旅行の報告を行いたい。

まず、1回目は平成20年8月7日、8日に大阪大学共通教育課程に在籍する留学生16名と彼らのチューター5名を引率して、兵庫県淡路島と徳島県の各所の見学旅行を実施した。見学旅行に際して大学教育実践センター教務係で作成した旅程を簡単にまとめておく。まず8月7日（木）8時50分に大阪大学豊中キャンパスサイバーメディアセンター入口玄関前に集合し、バスで出発する。そして、中国・山陽道を利用して、13時30分に大鳴門公園内の大鳴門橋遊歩道渦の道に到着して、1時間ほど園内を散策する。15時30分には阿波おどり会館に到着して、会館および阿波おどり公演を見学の予定。宿泊地は徳島

県の「徳島グランドホテル偕楽園」となっている。

8月8日（金）は9時にホテルを出発して10時に三熊山洲本城に到着し、日本の歴史的・文化的なお城を見学する。その後、たこせんべいの里、静の里公園などを観光した後に、昼食をとる。そして、14時30分に東浦/千年一酒造を見学し、18時に大阪大学豊中キャンパス内図書館前に到着して解散という旅程である。

それから2回目は11月29日（土）に滋賀県への日帰り旅行を実施した。8時50分に大阪大学豊中キャンパスサイバーメディアセンター入口玄関前に集合し、バスで滋賀県へ向けて出発。10時30分頃、甲賀の里忍術村に到着し、村内を見学する。そこで昼食を取ったあと、バスで移動し14時頃に信楽陶芸村へ到着。村内見学の後に陶芸づくりを体験する。17時30分頃大阪大学豊中キャンパス内図書館前に到着の後解散、という旅程である。

次節以降では引率した教員の体験談および留学生とチューターの感想を中心に、見学旅行の様子について詳細な報告を行う。一般の方には外国人の視点を通した旅行体験記として楽しめると思う。関係者の方には、留学生の大阪大学での学習および生活環境を改善するための参考資料として役立てて頂ければ幸いである。

2. 引率報告

第1回留学生見学旅行

8月7日（木）天候：快晴

8月7日午前9時に留学生16名、チューター5名と教職員4名の総人数25名で豊中キャンパスを出発した。天気は晴れでとても暑い。出発後、今回の見学旅行の内容について大学教育実践センター教務係の千鳥さんと松本さんから説明があり、そして坂東先生からは旅行の安全についての確認があった。その後全員で簡単な自己紹介を行った。目的地は兵庫県淡路島と徳島県の各所で、旅行のしおりを見ると、初日は「鳴門のうずしお」と「阿波おどり」を見学、2日目は日本の古風な城である「三熊山洲本城」や酒造りの「東浦／千年一酒造」を見学、と非常に盛りだくさんな内容になっている。留学生とチューターは今回の見学旅行を楽しみにしていたようで、これを機に様々な国の人と文化交流をして、友達をつくりたいという雰囲気が感じられた。学生の人たちは日本語での自己紹介もしっかりとおり、4月から大阪大学で勉学に励んできた様子を感じることができた。

出発から1時間半くらいたったところで、長いトンネルを抜けた後に明石大橋に到着した。全長3911mの巨大なつり橋からの眺めは見事で、学生もそこからの風景には魅了されたようだ。また橋を渡りきったところの淡路サービスエリアで休憩をとったが、そこからは明石大橋の全貌が一望でき、皆で記念写真を撮影した。このサービスエリアで昼食の予定だったが、予想以上に到着がはやかだったので、小腹の空いた人だけ簡単な食事をした。



午前11時に淡路サービスエリアを出発して、順調に淡路島を横断していった。道中では添乗員の方がバスから見える淡路島の風景について解説をしてもらった。その地方の言い伝えや伝説なども交えて話をしてもらったので、学生は興味深く話に耳を傾けていた。淡路島は玉ねぎの産地で、オニオンスープや玉ねぎの焼酎などが特産物とのことである。

正午前に大鳴門橋に到着した。これは淡路島と徳島県を結ぶ橋で、バスからでも眼下に小さく渦を巻いている様子が見えた。橋を渡りきったところでバスを降りて、大鳴門橋遊歩道「渦の道」を皆で歩いた。遊歩道には心地よい海風が吹いており、また足元が透明なアクリル板になっていて、直に足下の渦を見ることができた。残念ながら私たちが渦の道を通ったときは干潮と満潮の間の時間帯で、大きな渦を見つけることはできなかった。しかしそれでも学生と談笑しながら楽しい時間を過ごすことができた。遊歩道を引き返してからは昼食の時間である。学生の中には自分で弁当を持参してきた人もいた。私はワカメたっぷりのうどんを頂いた。歯ごたえのあるワカメで、聞くところによるとこのあたりはワカメの特産地であるとのことだ。私は食事の間、なぜうず潮が発生するのかを考えてみたが、あまりはっきりとした解答を思いつかなかった。食事が終ると再びバスに乗り車して、一路今日のメインの目的地である阿波踊り会館へと向かった。



昼食をとった後の車中でうとうとしていると、1時間ほどで阿波踊り会館へ到着した。阿波踊り会館ではまずおみやげ屋をのぞいて、それから本日のメインイベントである阿波踊りの見学を行った。祭りのお囃子の音に合わせて男性は力強くステップを踏み、女性は艶やかに踊る姿に、留学生たちは大変興味を持ったようだった。男性は色々な踊りがあるようにみえるが基本的には3種類に分類され、女性は基本に忠実な踊りを踊るのだそうだ。一連の迫力のある踊りを見せて頂いた後に、最後に阿波踊りを全員で踊ることになった。上手に踊っている人はハワイ観光で見るような花の首飾りをかけてもらつた。結局3人の踊り上手が選出されたのだが、その中になんと外国語学部の許さんがいるではないか。とても初めてとは思えない踊り姿で、このことが後々交流を深めるのに大変重要な役割を果たすことになる。伝統ある阿波踊りを体験し、皆で一緒に踊った一体感も出て、非常によい経験になったことと思う。阿波踊り見学の後は自

由行動の時間で、私は留学生およびチューターの人たちと阿波踊りミュージアムを見学した。



阿波踊り会館を午後4時に出発して、ほどなくして宿泊予定のホテルに到着した。事前に渡された部屋割りにしたがって、それぞれの部屋に分かれた。6時半からの夕食の時間まではまだ時間があったので、各々大浴場に入ったり散策したりと自由時間を過ごした。夕食に先立って千鳥さんと松本さんから明日の旅行内容についての連絡があった。そして坂東先生の乾杯のあいさつがあり、皆で食事をはじめた。食事は豪華な和食で、鯛料理を中心とした日本料理のごちそうが並んだ。ただチューターのなかに鯛アレルギーの人がいたので、食べられる品が少なくなってしまったようだ。留学生は食事に問題はなかったようだが、今後は菜食主義者や宗教上の理由で食事制限がある人も参加すると思うので、そのあたりは事前確認に気をつけるべき点だと思う。

食事のとき私はカンボジアからきた留学生の隣に座った。彼になぜ日本に留学したのかを聞いてみると、日本に来ることは子供のころからの憧れだったと話してくれた。子供のころ学校の先生から日本はすごく発展しているという話を聞いたそうで、それが強い印象として残っているということだった。カンボジアの現在の若者の考え方に対する直接触れることができて、非常に有益であった。

食事もそろそろ終わりに近づいたころ、旅館の方々が阿波踊りを披露して下さった。三味線の音が響き渡って昼間の感覚が思い出されたのか、旅館の方が踊るように促されると、昼間表彰された学生が先頭に立って、それからうずうずしていた学生が数名後に続いた。大阪を出発してからまだ12時間もたっていないというのに、阿波踊りを通して場はすっかり打ち解けた雰囲気となった。さらにその後、基礎工のチューターの坂手さんが日本の伝統的なおもちゃとして、けん玉を紹介してくれた。けん玉には検定があるらしく、その級をとるのに必要な技を次々に披露してくれた。けん玉を7つも用意してくれていて、留学生に挑戦を促していた。ここは日本だからだろうか。最初に挑戦したのは殆ど女性である。男性諸

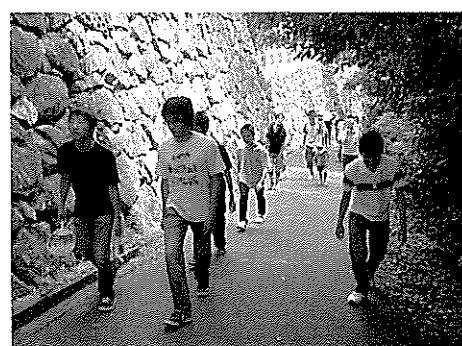
君は日本の文化に染まっているようである。しかし最後はほぼ全員トライして、なかにはものすごい勢いで上達する学生もいた。食事の後は学生中心で近くの公園で花火をやって楽しんだようだ。



8月8日（金）天候：快晴

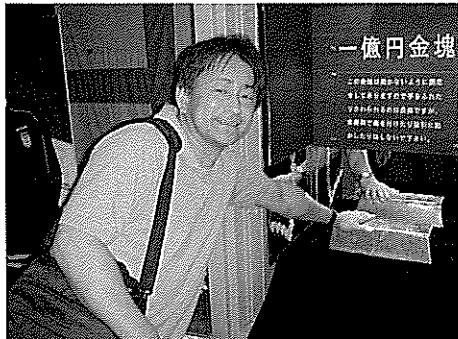
セルフサービスの朝食を各々済ませた後、予定を少し遅れてホテルを出発した。車中では千鳥さんと松本さんから今日の予定についての説明があった。「三熊山洲本城」、「たこせんべいの里」、「静の里公園」および「東浦千年一酒造」というのが今日の見学コースである。静の里公園では1億円の金塊を見ることができるそうである。

バスで1時間ほど揺られていると、目的地の淡路島洲本町に到着した。さほど高くない三熊山の山頂に小さなお城が見える。三熊山の中腹でバスを降りて5分ほど急な坂道を登ると、眼下には美しい海辺を眺めることができた。視界が良好な場合には関西国際空港も見えるそうである。お城は非常に小さくて、海賊を見張るためのやぐらのような感じだった。途中で学生と学生生活について色々な話をした。基礎工の学生はやはり最初は日本語と物理と両方同時に勉強しなければならず、また大阪弁で話されると意味を汲み取れないこともあるということだった。先生はフレンドリーに接したつもりだろうが、そういう話を聞くと留学生の授業はなかなか難しいものがあると感じてしまう。また留学生同士は頻繁に交流し



ているという話を聞いたことがあったので聞いてみたが、意外とそうでもないようである。今回のようなイベントは重要だとあらためて感じた。

添乗員さんの道中での説明を聞きつつバスに揺られて30分ほどで、今日2番目の目的地であるたこせんべいの里へ到着した。ここでは様々なせんべいが販売されており、また試食もできた。無料でコーヒーのサービスがあったのはありがたい。ここで大量にたこせんべいを買っていく人もいた。それから次に静の里公園に到着した。この公園の名前の由来は源義経が寵愛した静御前のお墓があることからだそうだ。しかしこの公園の目玉はなんといっても一億円金塊である。平成元年の町おこし資金の一億円を金塊にして保管しており、直に触れるということでこれまでにも数多くの観光客が訪れたようである。



午後12時半に静の里公園を出発して食事の場所へと向かった。途中高さ100mほどもある巨大な仏像があり、学生は驚嘆の声をあげていた。食事場所には1時過ぎに到着し、それぞれ適当に分かれて遅めの昼食を頂いた。食後のソフトクリームを食べながら散策していると、韓国から留学してきたお坊さんがいたので、色々と話をした。彼に言わせると、日本ほど西洋と東洋の文化が見事に融合している国はなく、アジアのほとんどの国が日本に憧れを抱いているそうだ。日本人はもっと誇りを持つべきだ、とお説教された。いたって真面目な話をしていたのだが、ちょっとした円台の上で話をしていたので、バスに戻ると千鳥さんに、二人で漫才でもしてはったんですか、とつっこみを入れられた。

最後のイベントは淡路島の酒蔵である。日本文化の代表的な品である日本酒について、どのような場所で醸造されているかを勉強するのが目的である。残念ながら酒造のシーズンは11月10日から3月10日までの期間のみだそうで、今回は試飲がメインとなった。もともとは61ヵ所も酒蔵があったそうだが、現在では震災の影響もあってか2ヶ所にまで減ってしまったそうである。また酒造

の期間が4ヶ月間と短いことから、なかなか若手の働き手が来ないのも深刻な問題とのことであった。試飲では様々なお酒を20才以上の学生たちと味わった。白ワインのようなフルーティーな日本酒があることには驚かされた。



午後3時半、予定していた旅程をすべて終了し、一路大阪へと向かう。行きに通った明石大橋を今度は淡路から本州へと渡っていく。昨日の出発のときには学生・教職員とともに多少の距離があったが、今はその距離もずいぶん縮まったように思う。日本の暑い夏、豊かな自然と文化に触れながら、留学生には貴重な体験になったと思う。午後4時45分、無事豊中キャンパスに到着。皆さん暑い中お疲れ様でした。

第2回留学生見学旅行

11月29日（土）天候：快晴

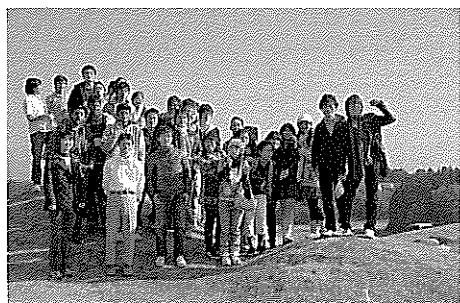
今年度2度目の留学生引率旅行は、留学生32名、チーター5名、教職員が6名の総勢43名となった。前回に比べて20名近く人数が増えたことになる。当初は50名ほどの参加者を予定していたが、急な体調不良などにより少し人数が減ってしまったようだ。バスを2台チャーターしていたので、適当に分かれて乗車することになった。天気は快晴で、途中では例年より遅めのピークをむかえた紅葉を十分堪能できるような気がする。

バスは9時10分に豊中キャンパスを出発。目的地は滋賀県で、甲賀忍術村と信楽焼の陶芸村でそれぞれイベントを体験することで、学生や教職員との交流を促進することが主な目的である。まず車中ではマイクをまわしてお互いに自己紹介をしていった。皆今回の旅行を楽しみにしているようだ。また前回から続いて参加する人も多く、あらためて今回の企画が留学生にとって重要なイベントであることを感じた。車窓からの紅葉を楽しみつつ、車中では留学生と色々な話ができた。普段は彼らと接する機会がないのでとても貴重な意見を聞くことができた。留学生にとってはインターネットの掲示板サイトな

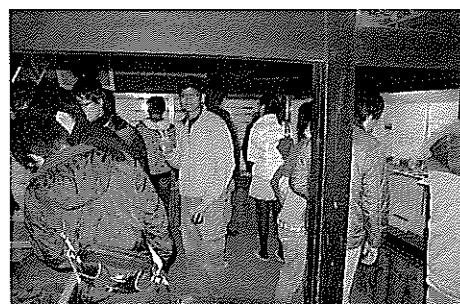
どが主な情報源であるようで、学内でもそのようなサイトを充実させていくことは必要かもしれない。



滋賀県に入ってしばらくすると、休憩場所である甲南サービスエリアに到着した。やはり今日あたりが紅葉のピークのようで、ここからとても素晴らしい眺めを味わうことができた。学生にとっては朝が早かったようで、ここで遅めの朝食を取る人もいた。景色が素晴らしかったので、ここで集合写真を撮ることにした。

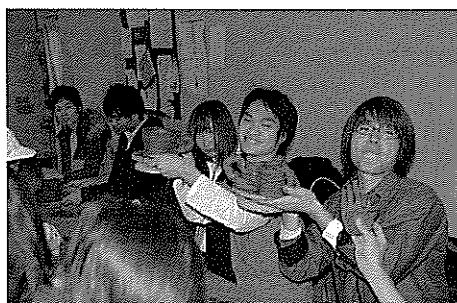


11時10分に最初の目的地である甲賀の里忍術村へ到着した。予定より30分以上遅れたため、多少駆け足で見て周ることになりそうだ。最初に忍術博物館に行って、実際に使われていた忍者の道具を見学した。博物館自体がかなり古い建物で、留学生たちは昔の日本の家屋の雰囲気を楽しんでいたようだ。次のからくり屋敷では敵の侵入を防ぐための回転扉や罠などの様々なからくりがあつて、これまた十分に楽しかったようである。それから昼食をとって手裏剣投げの体験をした。私はインド、ネパール、スリランカからの留学生たち4人と一緒に手裏剣投げを楽しんだ。1人はチューターであとの3人は1回生であったが、皆日本語を流暢に話しているので感心し



た。日本は物価が高く、生活においてはなかなか厳しいところもあるようだ。

忍術村を予定通り1時に出発して、次の目的地である陶芸村を目指した。道中で前回や今回の見学旅行について各々話してもらった。温泉に行きたいという意見や、ディズニーランドに行きたいという話が出たが、後者は日本についての理解が深まらないので無理だろう。信楽陶芸村には1時40分に到着した。予定より少し早く着いたため、ここではゆっくりと時間をとれそうである。陶芸村では実際に粘土をこねて自分の作品を作る、という体験を行った。先生の説明を聞いた後、みな創造力を働かせて作品作りに取り組んで行った。初めて粘土をこねてろくろを回す人も多く、最初は苦戦していたようだが、徐々に慣れてくると口数が少なくなり、真剣に集中して作業をしていた。1時間ほど作業をして、コップや皿といった日常のものから箱に入ったクマやハートの形のオブジェまで、面白い作品が出来上がった。この後陶芸村の方に窯で焼いてもらって、完成した作品は1月中旬の忘れた頃に送られてくる予定である。最後にタヌキの置物の前で記念写真を撮って、今回の見学旅行のイベントはすべて終了した。



今回の見学旅行も前回と同様に、日本の文化に触ることができ、さらに天候にも恵まれて美しい山々の彩りを楽しむことができた。帰りのバスでは皆疲れて眠っていたが、とても充実した一日に満足していることと思う。5時40分に阪大に到着、皆さまお疲れ様でした。また今回の見学旅行を企画された教務係の皆さん、どうもありがとうございました。



3. 留学生の感想

ここでは参加した留学生の感想を紹介する。なお誤字脱字に関しては多少修正を加えたが、留学生の文章の雰囲気を保つために基本的な文体は変更していない。

第1回見学旅行について

最初は留学生の中で知っている人が少ないということでの旅が不安になっていたが、よくよく考えると、逆に友達を作る絶好のチャンスでもあります。鳴門の大渦潮は見られなかったのは残念だったが、阿波踊り会館や千年一酒造での見学で、徳島の人たちが一生懸命がんばって暮していることに感動しました。旅館の一泊の泊まりでも、多くの留学生の友達や日本の学生の先輩ができ、とっても楽しく、有意義な見学旅行でした。

(中国、薬学部)

今回の見学旅行はとっても楽しかったです。私がもっとも好きなのは阿波踊りです。阿波踊りを見ると、日本の伝統的な思想もわかるようになりました。それは自然に対する愛着だと思います。月、風、花など自然に対する特別な感情でしょう。楽しいこともありましたが、残念なこともあります。それは鳴門の渦潮が見えませんでした。しかし、初めて海の上空から海を見るとも、とっても楽しかったです。きれいな海ときれいな岩とあわせて、内陸で育った私は感動しました。そして酒造の工場の見学もおもしろかったです。酒造りの過程は見えませんでしたが、お酒の文化も一度わかるようになりました。豊かな見学旅行をくださいまして、ありがとうございます。お疲れ様でした。 (中国、外国語学部)

みんなと一緒に楽しく2日を過ごせて、期待以上の思いをさせていただきました。学校側も考えて、充実にスケジュールを作ってくれて、ありがとうございます。お酒作りの工場とか、一億円の金塊とか、印象に残りました。またこういうような機会があったら、ぜひ参加させていただけないでしょうか。 (中国、外国語学部)

テレビや写真でしか見られなかった日本の伝統文化を直接体験できる大事な旅行だった。とりわけ阿波おどりの単純なリズムと動作が印象すぎて感動的だった。庶民の大衆文化をこれだけ保存するのは、地元の人々の伝統をまもる努力がなければ、不可能なことだと思う。会館でちょっとだけ接した経験だったが、まつりの際、直接

楽しくなるほどおもしろかった。日本において、はじめて見た日本ならではの姿だった。学校以外での文化体験機会を準備してくれた学校側に感謝します。

(韓国、文学部)

今回の一泊二日の旅行は徳島県、兵庫県淡路島各名所を見学しに行きました。一日目は淡路島周辺を見学し、また、本州と四国をつなぐ長い橋—「大鳴門橋」も見ることができました。このような橋を見るのは正直はじめてです。その壮大さと周辺の美しさは大都会では見られない、ならではの景色です。午後私たちは徳島県の特色である阿波おどりをみました。ただ見るだけでなく、実際におどりを体験し、日本の伝統的な文化に十分触れることができました。二日目は三熊山洲本城、静の里公園、たこせんべいの里などいろいろな所を見学し、私たちが知らない日本の文化、大都市では感じられないことに十分深入りすることができました。とても充実した二日間だったと思います。今後もこのような留学生活活動をたくさん行ってほしいです。 (中国、外国語学部)

見学旅行へ行って楽しかったです。旅行しながら、日本の自然景色を見たりと、日本の伝統と文化の理解はより深くなりました。まず、鳴門の渦潮はすごくきれいですね。初めて45メートルの高さから渦潮をみました。最初は少し怖いですが、だんだんに慣れます。さすがは世界の三大潮流の一つ、海の波の声を聞きながら、渦潮を見ます。私はあたかも魂を清められたように胸がすっきりです。うみかぜは顔を吹いて、高い所から遠くを眺めています。1学期講義の疲れは、もうすっかり忘れてしました。次に「阿波おどり」を見学しました。日本三大踊の一つとして、約400年の歴史があります。そして、続きます。時代の変化とともに、現在は3種類の「阿波おどり」があります。踊りを見ると、日本人が積極的に生活に向き合う元気な態度を理解できます。今回の見学を通して、いろいろ勉強になりました。楽しかったです。 (中国、工学部)

この1泊2日の見学旅行はとてもおもしろかった。いろんな所を見ていた。少しだけでも日本の文化を学んだ。学校の見学でなければ、私自身は徳島県まで行かないかもしれない。阿波踊りとその歴史を学んで、大変貴重な経験でした。 (インドネシア、基礎工学部)

今回の旅行は日本の文化を知るのにいい機会でした。

日本の伝統的踊りの阿波踊りを見ただけでなく、自分も体験できたので、よく阿波踊りの姿が印象に残っています。そして、日本人の（子供？）遊び、剣玉のいろいろな技を知ることができました。（カンボジア、経済）

前回の一泊二日旅行はとても楽しかったです。淡路のきれいな海を見て気持ち良かったです。そして、阿波踊りの見学も、踊ることもできまして、賞ももらいました。住むところも非常に居心地が良いところだったので、ゆっくり休めました。夜は、皆と一生にご飯を食べたり、花火をあげたり、お風呂に入ったりして、いい思い出になりました。ちなみに、二日目の朝は、先生たちの寝ぼけてる顔を見て、おもしろかったです。このように、学校が行った旅行のおかげで、日本のいろんなところをまわりながら、友達を作っていくことができました、ありがとうございます。（中国、外国語学部）

今回の見学旅行は一言で楽しくてよかったです。自分はバス旅行が好きなんで、バスに乗りながら、道沿いの風景なども見られた一方で普段授業で忙しいためなかなか会えない留学生同士とも交流ができました。見学で見た各所も前には行ったことがありませんので、とても楽しめました。最初の渦の道は上から下に見たとき迫力があっておどろきました。二つ目の阿波踊りは日本の伝統的な踊りで興味深いと思いました。初日の泊まりの和室は初体験で、たたみに寝るのも初めてで満足しました。二日目はほんとにあっという間に終わって大阪大学でのいい思い出になりました。ありがとうございます！（中国、法）

普段は会う事のできない工学部、基礎工の他学部生や先輩たちと一緒に旅行ができる良かったです。渦の道を一周しながら周りの島々や下に見える海眺めました。会館で見た阿波踊りはとてもきれいで日本的な感じがしたし、自分で踊る体験も出来てとても良かったです。翌日、三熊山洲本城に行ってお城の一番上まで登ってみました。お城とはいえ、とても小さかったしすごくせまかったので少し驚きました。たこせんべいの里というでかいお店では色んな種類のたこせんべいを販売していました。試食もでき、無料コーヒーも飲めて良かったです。静の里公園では一億円金塊、無数のコイが泳いでいる池、こすると中にたまってる水がわき出すつぼ、きれいな公園など色々な面白い物が見られて良かったです。

（韓国、基礎工）

8月7日：目的地：*淡路島に出発：あかし橋を渡って昼食をとり、他の参加者と紹介をしました。*大鳴門公園：渦巻きをみたりしました。*阿波おどり会館：阿波踊りを見ただけでなく、実際に一緒にためして面白かったです。染色されたお土産も買いました。*ホテル：ごちそうで夕食して、皆さんと花火をして、初めての日本的な温泉でした。8月8日：目的地：*三熊山洲本城：上から見た景色がきれいでした。*静の里公園：一億円の金塊の場所ですが、バスツアーガイドの女性の写真が多かったのはなぜでしょうか。*たこせんべいの里：たこせんべいなどの作り方が見られると思ったのになかったのですが、お土産を買うには便利でした。

（インドネシア、基礎工）

8月7日の朝出発、真昼間に鳴門の渦潮に着き、明石大橋の展望台参観しました。午後は阿波踊り体験して大変面白かったです。夕方ホテルに着き、夕食は楽しいパーティーでした。遊びも面白かったし。夜には近くの湖の辺りでほとんど皆で花火を遊んだ後（もちろん安全に遊んだり掃除したりしました）、部屋でトランプ等遊びました。次の日、天守閣とたこせんべいの里と酒屋へ行きました。お土産が面白くて色々買いました。8月8日の午後6時頃豊中キャンパスへ戻りまして、うちに帰りました。大変満足しました。どうも有難うございます。

（ベトナム、工）

旅行に行って、日本のいい場所まで行かせてもらってありがとうございました。私は特に気に入ったのは日本の有名な文化財の伝統的な阿波踊りです。その踊りを見てまたその由来、それを保ち続いだ各段階を教えてもらってとても面白かったです。それを見てちょっとふりかえるとベトナムの伝統的な踊りがなくなりつつある現状を残念に思います。（ベトナム、工）

今回の見学旅行についてはだいたい満足しています。四国に初めて行ってみたし、日本の伝統的な和食も初めて食べてみたし、阿波踊りもいい経験になりました。でも渦が見れなかったのはちょっと惜しいです。時間を合わせていったらもっとよかったです。それ以外はよかったです。日本のいろいろな文化を習ったと思います。（韓国、工）

第2回見学旅行について

見学旅行はとても楽しかったです。初めて陶芸を作っ

ておもしろいと思った。日本の村と都市は違うことを感じた。人が少なくて自然な感じだ。もし後でpartyがあればもっと楽しいと思うよ。

(経済、中国)

陶芸を体験したのは一番感心した。届いてくる時を楽しみにしている。忍術村での忍者の家、忍者の道具を見て、前、忍者といえばただ黒い服を着ている人を想像したが、忍についての知識が広がった。この見学旅行には満足だった。

(経済、モンゴル)

初めてねんどで物を作りました。面白かった。後は忍術の家はすごかったと思います。忍術のダーツもおもしろかったです。つまり全部本当によかったと思います。

(工、インド)

今回の見学旅行はきっとこの大学でのいい思い出になると思います。すごく楽しかったです。忍術村は昨夜の雨のせいで少し思う存分遊べませんでしたが、信楽焼の方は大満足でした。自分の手を動かして泥を作品にするのは最高です。1月に作品が届くのを楽しみにしています。

(人間科学部、中国)

忍術村が予想以上にひどかったのでびっくりでした。期待が高すぎたのでその分落胆しました。陶芸村はよかったです。今回のような体験型の日本文化体験はいいと思うのでぜひ今後も行ってほしいです。日本に来て1~2年の留学生にはとてもいい経験だと思います。

(基礎工、日本)

忍術村も陶芸村もとても楽しかったですが、時間があまりなくてのんびり遊べなかったので少し残念だと思います。

(外国語、中国)

素敵な一日を過ごせてとてもよかったです。みんなと一緒に楽しんでいろいろと経験して嬉しかったです。この見学旅行に行った方にありがとうございます。

(法、ルーマニア)

今回の見学旅行はとても楽しかった。天気もいいし、事務室の人も親切に世話をしてくれました。どうもありがとうございます。夏の見学旅行に参加できなかつたので、残念だと思います。2回生になつたらまた見学旅行したいな。

(法、ベトナム)

とてもよかったです。普段自分であまり行けないところに連れて行っていただき、すばらしい体験ができました。お弁当まで用意して下さって、本当にありがとうございます。前の一泊二日の旅行は帰国で行けなくて、非常に残念でした。今日短い一日でしたが、他の学部の留学生ともお話しでき、楽しかったです。また、留学生の交流会などを期待しております。(人間科学部、中国)

とても楽しかったです。ありがとうございます。

(基礎工、インド)

色々な国の方々が共通の経験を通して親睦を深める良い機会だったと思います。

(理、韓国)

忍術村は前から聞いていた忍者のことについてわかるような場所だったのでかなり新鮮なところだった。しかし、その村がそこまでちゃんとところでなかつたことと、手裏剣が4つしかできなくて、慣れたと思ったら終わってしまったことがすごく残念だった。そして陶芸村は韓国でも何回か体験したことがあってそんなに面白くはなかった。でも1回生のみんなと一緒に楽しくできてよい機会だったと思った。

(工、韓国)

面白かったが忍術村でもう少し他のやってみたいことがあります。陶芸村ではおもったとおりなかなか上手くできなくて残念です。またいつか練習します。見学旅行を行ってくれてまことに有難うございます。楽しかったです。

(工、ベトナム)

テレビや映画の中で忍者を見たことがあるが、忍者に関する本当のことはあまりわからなかったです。面白くいろいろ体験できて楽しかったです。

(経済、カンボジア)

本当によかったです。前の見学では帰国して行けなかつたから、今回の見学旅行に参加してよかったです。

(工、スリランカ)

4. 総括

見学旅行では1回目と2回目ともに、充分に計画を検討したコースを進むことにより、大きな事故やトラブルがなく、また一方で有意義な旅行とすることができたようを感じられた。特に経験豊富な旅行社の添乗員の方

に随行していただいたお陰で、旅行中のスケジュール管理が無理なく万全であった。このことが、余裕と安心につながり、旅行中に起こりがちな参加者の体調不良やケガなどの発生防止にも結びついたように思われた。

1回目は当初予定していた参加者人数を下回った感があったが、逆に参加者同士の会話がはずみ、親密感が増したことにより、より交流が深まったように感じられた。大阪大学に入学して間もない留学生は、大学での生活において打ち解けた友人関係が充分に出来ていない者も多いと考えられ、そういった学生の楽しいコミュニケーション作りの場として役立ったように思われた。また、2回目では初回から引き続き参加した学生も数多くみられた。留学生にとってこのようなイベントは積極的に交流する場として重要な役割を果たしていくことが感じられた。

さて、旅行中は多くの場所を回り、休憩も含めて集合・離散を繰り返したが、参加者は全員が集合・出発時刻をきちんと守り、理想的な集団行動が出来ていた。また、各種の催しにも積極的に参加をしていました。今回の旅行の趣旨を充分理解し、楽しい行事になるよう互いに協力が出来ていたことは、大きな成果であると考えられる。

全体としては、有意義に成功した見学旅行であったが、いくつか気のついた点についてもあげておきたいと思う。まず開催時期が適切であったかどうか。参加者に聞いてみると、1回目の8月は多くの留学生はすでに出身国に帰ってしまっているとのことであった。これは授業期間の区切りの時期の開催であったが、今後もこの時期に開催するのであれば、充分な周知活動を行い、帰国前に参加するよう広く呼びかける必要があると考えられる。2回目の11月は開催決定から当日までの準備期間が1ヶ月程度しかなく、周知に関してはかなり難しい面があった。今後も定期的なイベントとして行うのであれば、

入学時にイベントの存在を周知することは重要であると感じた。

また、今回は特に問題にならなかったが、海外からの留学生は、宗教上の理由などにより食事の内容が限られる場合があり、事前の調査の必要性が感じられた。今回は食物アレルギーを持つ参加者がいたことから、この調査は別の面からも重要と思われる。

見学を行った場所は、どこもめずらしく、また楽しい場所であった。充分に日本の歴史や文化に触れることが出来たと考えられた。さらに有意義なものにするためには、見学場所についての詳しい解説を事前に提供できれば、知識として有益なものになるように思えた。作成の手間が大変ではあるが、充分な準備が必要と思われる。

特に8月は一泊旅行であったが、ホテルでの夕食後の懇談の時間に、チューターの学生が「けん玉」を披露してくれ、大変に盛り上がった。この時間は見学旅行の中でも重要な位置を占めるため、今後の旅行開催では特に入念・綿密な準備・計画が必要と考えられる。

留学生にとって、大阪大学に入学して間もない時期に、このような行事を行うことは、大変意義のあることと感じられた。最後に、今回の旅行にご協力いただいた、教員・事務部の方々、チューター、旅行会社・乗務員の方々に厚く御礼申し上げ、総括の締めくくりとする次第である。

(ひゃくたけ よしふみ 大学教育実践センター・助教)
(ばんどう たかお 大学教育実践センター・准教授)
(まつかわ ひでや 大学教育実践センター・助教)
(ちどり てつや 大学教育実践センター・教務係)
(まつもと たかひろ 大学教育実践センター・教務係)
(とみやま だい 大学教育実践センター・教務係)
(やすくに くみこ 大学教育実践センター・教務係)